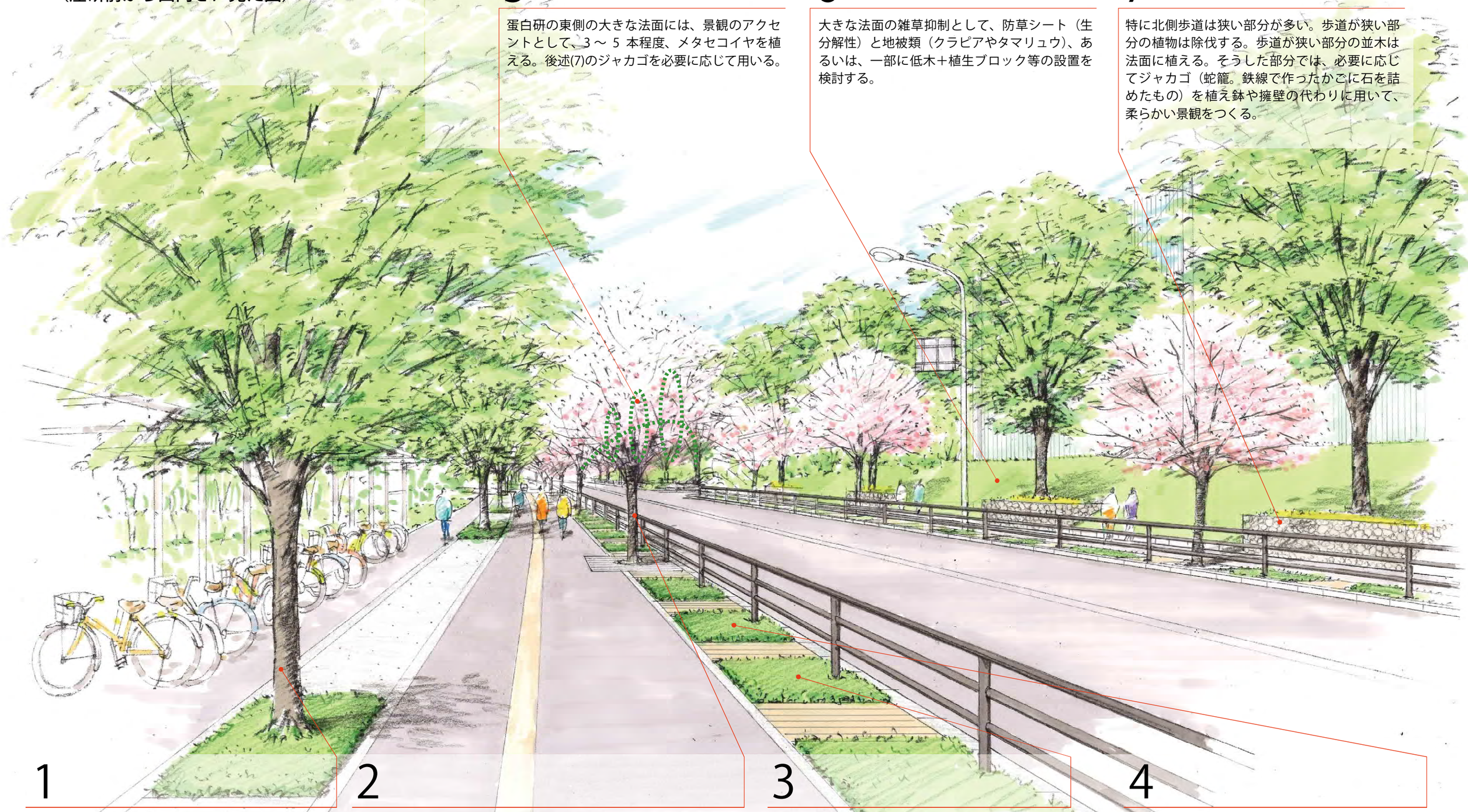
サクラ環状通り並木景観向上の考え方
（産研前から西向きに見た図）



5

蛋白研の東側の大きな法面には、景観のアクセントとして、3 ～ 5 本程度、メタセコイヤを植える。後述(7)のジャカゴを必要に応じて用いる。

6

大きな法面の雑草抑制として、防草シート（生分解性）と地被類（クラピアやタマリュウ）、あるいは、一部に低木＋植生ブロック等の設置を検討する。

7

特に北側歩道は狭い部分が多い。歩道が狭い部分の植物は除伐する。歩道が狭い部分の並木は法面に植える。そうした部分では、必要に応じてジャカゴ（蛇籠。鉄線で作ったかごに石を詰めたもの）を植え鉢や擁壁の代わりに用いて、柔らかい景観をつくる。

1

全体をケヤキの並木とし、道路から離して植える。密になりすぎないように間隔を広めにする。既設のナンキンハゼ等のうち生育が良いものは残して活かす。根上りを防ぐために、十分な土壌改良を行う。

2

車道際の高木（サクラを中心にする）も車道に寄りすぎないように植え（図は寄りすぎ。詳細設計にて修正）、車両通行の支障にならないようにする。これも十分に土壌改良を行う。
サクラの品種選定にも意を払う。

3

今の車道際の低木（アベリア・シャリンバイ）は、維持管理が追いついていない。これらは全伐し、必要に応じて横断防止柵を設置する。なお放置駐輪を防ぐ方策も検討する。

4

低木を除伐した部分は、地被類（クラピア又はタマリュウ等密植）とブロック舗装を混ぜることを検討。